



ルータおよびルータ インターフェイスの管理

この章では、Cisco Prime Network Registrar でルータおよびルータ インターフェイスを追加および編集する方法について説明します。

- [ルータの追加 \(1 ページ\)](#)
- [ルータの編集 \(2 ページ\)](#)
- [ルータ インターフェイスの表示と編集 \(2 ページ\)](#)
- [ルータのサブネットのプッシュと再利用 \(4 ページ\)](#)

ルータの追加

ローカル詳細およびリージョン Web UI

ステップ 1 Deploy メニューから、**Router List Router Configuration** サブメニューの (リージョン Web UI で) または **Routers** (ローカル Web UI で) を選択します。[ルータの一覧表示/追加 (List/Add Routers)] ページが開きます。

ステップ 2 Add Routers アイコンをクリックします。[ルータの追加 (Add Router)] ページが開きます。

ステップ 3 [ルータの追加 (Add Router)] ダイアログボックスで、管理者からのデータに基づいてルータを追加します。

- a) [名前 (name)] フィールドにルータの識別名を指定します。
- b) [説明 (description)] フィールドにルータの説明を入力します。
- c) [アドレス (address)] フィールドにルータの IP アドレスを入力します。
- d) アドレス フィールドに、ルータの管理インターフェイス アドレスを入力します。
- e) ip6address フィールドに、ルータの IPv6 管理インターフェイスのアドレスを入力します。
- f) 所有者とリージョンを選択します。

ステップ 4 Add Router をクリックします。

CLI コマンド

router name create address [attribute=value] を使用してルータを追加します。アドレスは IPv4 または IPv6 を使用できます。

次に例を示します。

```
nrcmd> router router-1 create 192.168.121.121
```

ルータの編集

ルータの編集には、一部のルータ属性の変更が含まれます。

ローカル詳細およびリージョン Web UI

左側の [ルータ ツリー (Router Tree)] ペインまたは [ルータ リスト (Router List)] ペインで、ルータ名をクリックします。[ルータの編集 (Edit Router)] ページで、さまざまな属性の値を入力できます。さらに、**Unset** チェックボックスを使用して属性を無効にすることもできます。変更を行ってから、**Save** をクリックします。

CLI コマンド

router name set attribute=value [attribute=value ...] を使用して、ルータ属性を編集します。次に例を示します。

```
nrcmd> router router-1 set owner=owner-1
```

ルータ インターフェイスの表示と編集

ルータ インターフェイスを編集するには、その属性の一部を変更する必要があります。

ローカル詳細およびリージョン Web UI

[ルータの一覧表示/追加 (List/Add Routers)] ページでルータに関連付けられている **Interfaces** タブをクリックすると、関連するケーブルまたはイーサネットインターフェイスのリストが表示されます。このページと左側の [ルータ ツリー (Router Tree)] ペインの両方から、インターフェイス名をクリックして編集できます。[インターフェイス (Interfaces)] タブには、インターフェイスを削除するオプションも含まれています (インターフェイスに対応する [削除 (Delete)] アイコンをクリックします)。インターフェイスの編集には、追加属性 **Unset** 機能も含まれます。仮想ルータのインターフェイスの追加、編集、または削除を無制限に行うことができます。ルータインターフェイスのアドレス、サブネット、およびプレフィックスを修飾する `vpn-id` も、[ルータ インターフェイスの編集 (Edit Router Interface)] ページで選択できます。



(注) ルータ インターフェイスの変更は、ルータ インターフェイスの削除とその後の追加として実行されます。

CLI コマンド

ルータ インターフェイスの属性を編集するには、**router-interface name set attribute=value** を使用します。次に例を示します。

```
nrcmd> router-interface Ethernet1/0 set ip-helper=192.168.121.122
```

関連項目

[変更可能ルータ インターフェイス属性 \(3 ページ\)](#)

[インターフェイスのバンドル \(3 ページ\)](#)

変更可能ルータ インターフェイス属性

ルータ インターフェイスの属性を編集する場合、次の属性を変更できます。

- 名前
- MAC アドレス
- 説明
- インターフェイス上のプライマリ サブネット アドレスのアドレス
- インターフェイス上のセカンダリ サブネットのアドレス
- インターフェイスの任意の IP ヘルパー (DHCP リレー エージェント) のアドレス
- インターフェイスのユニキャスト パケットを受け入れる DHCP サーバーのケーブル ヘルパーのアドレス
- ルータ インターフェイスに関連付けられているリンク
- ルータ インターフェイスの IPv6 アドレス
- インターフェイス用に設定された IPv6 DHCP リレー宛先アドレス

インターフェイスのバンドル

インターフェイス バンドルは、ルータ インターフェイス間のロード バランシングを提供します。バンドルを定義するときには、バンドルに参加しているすべてのインターフェイスが同じバンドル識別子 (ID) を持つ必要があり、これはプライマリとして指定されたインターフェイスの名前です。

バンドルを使用する場合は、[Edit Router Interface] ページの [インターフェイスのバンドル設定] セクションに次の属性があるか、または CLI で **router-interface** コマンドを使用して設定します。

- *bundle-id* : インターフェイスのバンドル識別子。プライマリインターフェイスの名前です。バンドル内の参加しているすべてのインターフェイスは、同じバンドル ID を持つ必要があります。
- *is-primary* : このインターフェイスは、バンドルのプライマリインターフェイスです。

ルータのサブネットのプッシュと再利用

サブネットをルータインターフェイスにプッシュしたり、サブネットを再利用したりすることができます（『Cisco Prime Network Registrar 11.0 DHCP ユーザーガイド』の「サブネットの再利用」の項を参照）。仮想ルータを使用してサブネットをプッシュまたは再利用すると、ルータインターフェイスに設定されているすべてのプライマリおよびセカンダリ関係は、関連するサブネットとスコープについても設定されます。